

参加型観光で目指す熊本市の観光活性化 ～「リアル時代劇」と「AR上映」による観光客誘致～

熊本おもてなし隊 宮口 恵美(天草市) 田口崇(宇土市) 松岡 由佳(熊本市)

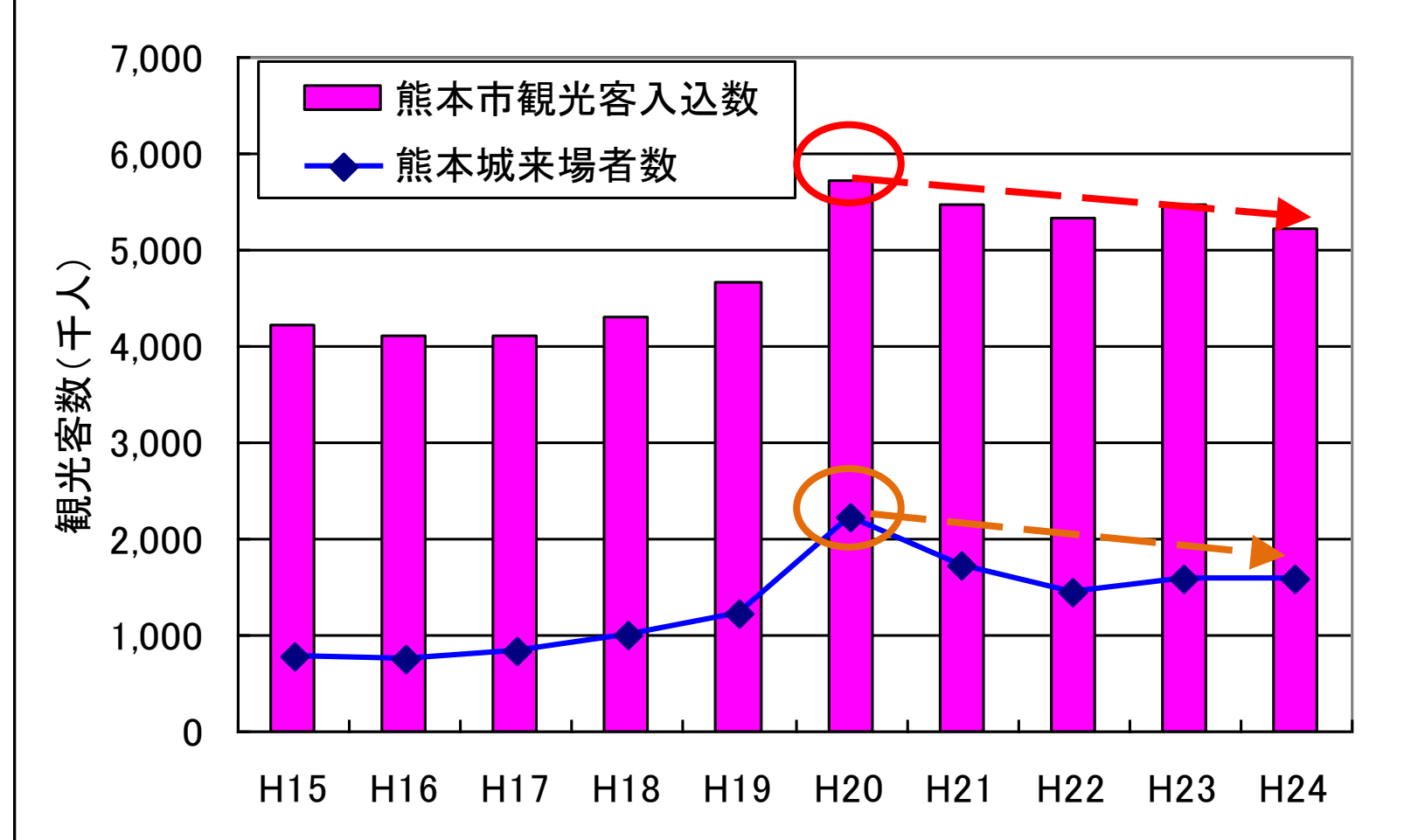
熊本市には、熊本城・水前寺成趣園などの歴史的観光名所、豊かな自然、食、人などたくさんの誇るべき観光が存在する。しかし、残念ながら、熊本市観光客入込数は平成20年をピークとして、横ばいもしくは微減の状態が続いている。そのため、「熊本市の観光活性化」をテーマとして、歴史的観光名所への誘致策とする参加型「リアル時代劇」「AR上映」の提案を行う。



1. はじめに

●熊本市・熊本城の観光客数

★熊本市観光客入込数・熊本城来場者数
平成20年をピークとして、横ばいもしくは微減の状態。
↑熊本城の本丸御殿が完成し、熊本城築城400年祭などの様々なイベントが開催された年



★全国城郭入場者数

[熊本城] H20年 1位 (Good news) → H21年～ 2位 (Bad news)

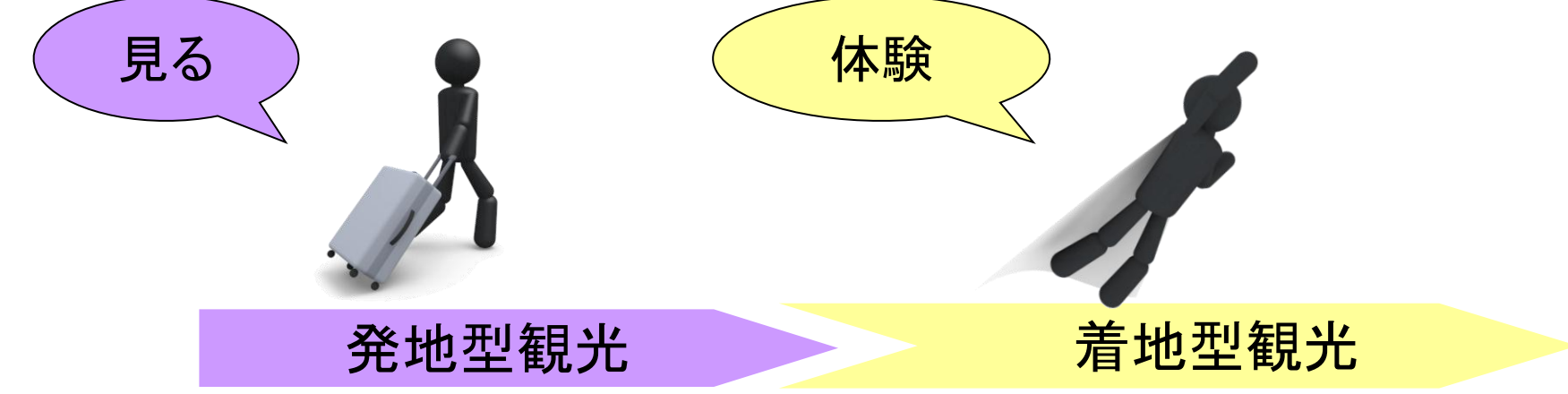
★行ってよかった日本の城

[熊本城] H25年 1位 (Good news)

⇒熊本城などの、熊本市内にある歴史的観光名所は、観光客の関心をひく**集客能力は十分にあるが、継続効果・リピーター効果が発揮できていない!** (問題)

●周囲の状況の変化

★観光スタイルの変化
従来の「見る」タイプの「発地型観光」ではなく、「参加」「体験する」タイプの「着地型旅行」が目立っている。



★若者の旅行離れ
近年、若者の旅行離れが進んでいる。2012年の延べ旅行者数の5割以上は50歳を超えた世代が占めている。

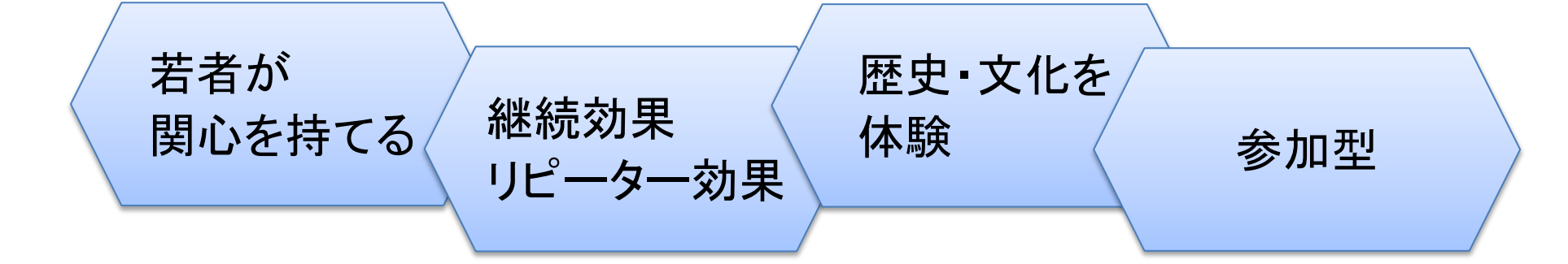
★今後のライバルの動き
復元整備中の名古屋城本丸御殿が部分公開を始め、2015年度には姫路城が天守閣の大改修を終える。これにより、**熊本城の入場者数の減少が予想される。** (警戒)

●熊本市の目指す姿(「第6次総合計画」より)

★本市特有の**歴史や文化を生かした**観光の振興
★歴史、文化を**体験・学習**できる場

●今後の課題と提案

これらの結果により、熊本市観光活性化のためには、**歴史的観光名所への観光客の誘致が鍵**となると考えている。そのため、



を満たすイベントの開催が必要となる。

参加型「リアル時代劇」

「AR上映」

を提案します!

(*) AR

拡張現実(かくちょうげんじつ)のこと。Augmented Realityの略で、人が知覚する現実環境をコンピュータにより拡張する技術、およびコンピュータにより拡張された現実環境そのものを指す。

2. 提案

●提案① 参加型「リアル時代劇」

★概要

熊本市の**歴史的観光名所**でその場所にまつわる**偉人に関するストーリー**を史実に基づき再現し「リアル時代劇」を行う。その際にポイントとなるのは、
・熊本市内の歴史的観光名所(例えば熊本城など)で
・その土地に生きた偉人にまつわる出来事や生き様を
・史実に基づいて
・一般参加者が
演劇を行うということである。

★期間・タイミング

準備や予算、場所の確保の都合上、年に1~2回程度の頻度で、1日での開催を想定。1回につき、観光名所を1つ指定。

★具体案

リアリティの追求と参加しやすさのバランスにより、二部構成とし、訪問者がどちらに参加するか選択可能とする。もちろん、見学だけでもOK!

	①事前準備参加型	②当日参加型
概要	一般参加者が、史実に基づきシナリオを作成し演劇を行う。(時代や舞台は主催者が指定。)	①につながるストーリーで、当日のみの参加を想定。着物姿での名所歩きや戦国時代の合戦体験など、簡単な動きのみ。
演者	主に、地元メンバー	主に、観光客や当日のみの参加者
リアルさ	○(ストーリー性を重視)	△(台本なし)
参加しやすさ	△(事前準備や練習が必要)	○(飛び入り参加OK・衣装貸出)

★リアル時代劇(一例)

《加藤清正@熊本城》

- ・本丸御殿前にある銀杏の木の植樹
- ・加藤清正と小西行長の仲たがい
- ・昭君の間を作った理由



《細川忠利@水前寺成趣園》

- ・水前寺御茶屋の築きと茶道のたしなみ

《横井小楠@横井小楠記念館・四時軒》

- ・坂本龍馬との対談・物別れ
- ・井上毅との対談
- ・「国は七条」への思い etc



●提案② AR上映

★概要

「リアル時代劇」を撮影し、その時代劇を行った場所で**AR技術により上映**する。これにより、通常では何も見えないが、スマートフォンなどのタブレット端末を介してみると映像が鑑賞できる。※鑑賞するためには、アプリがインストールされたタブレット端末が必要になるが、持っていない人には、現在、観光地でよく見かける携帯ガイドプレーヤーのようにタブレット端末の貸出で対応。
<現在あるARを使ったPR例:くまフォト(RKK)>



★期間・タイミング

リアル時代劇実施後、常時。

★画面サンプル(合成)

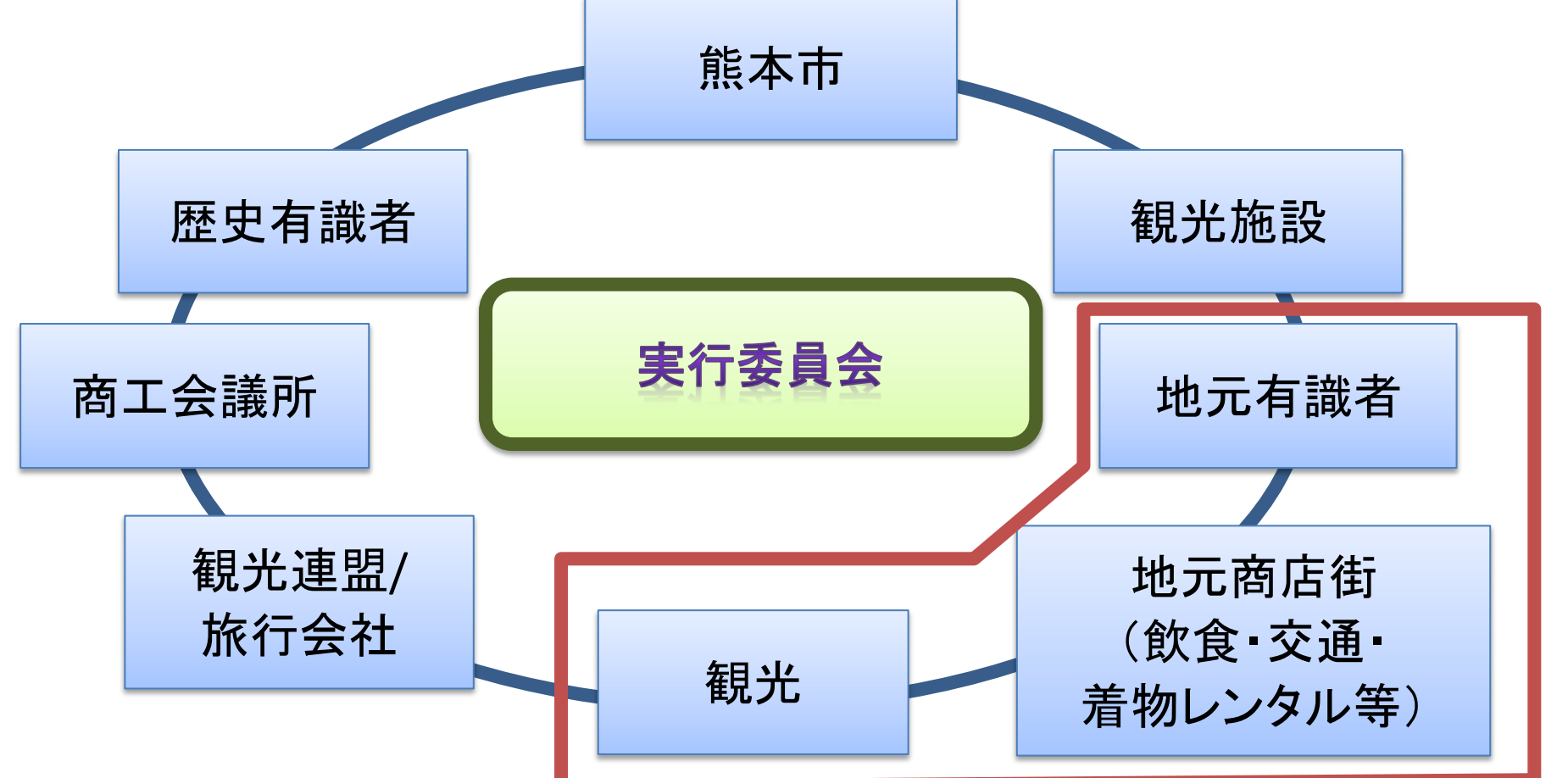


タブレット端末を覗いて見ると・・・



●実施体制

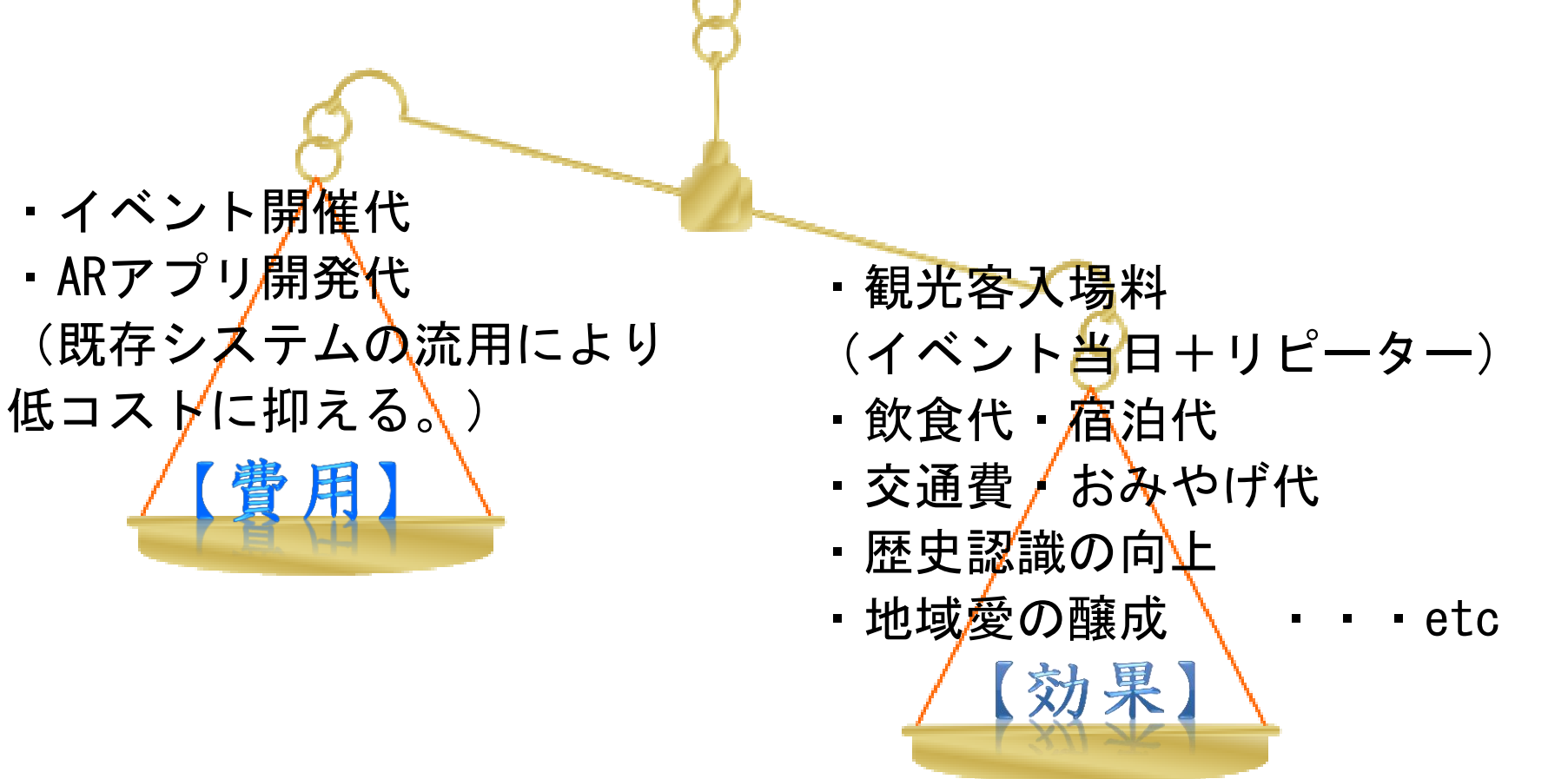
地域観光資源の再発掘や、広く意見を取り入れるために、実行委員会の設立を行う。



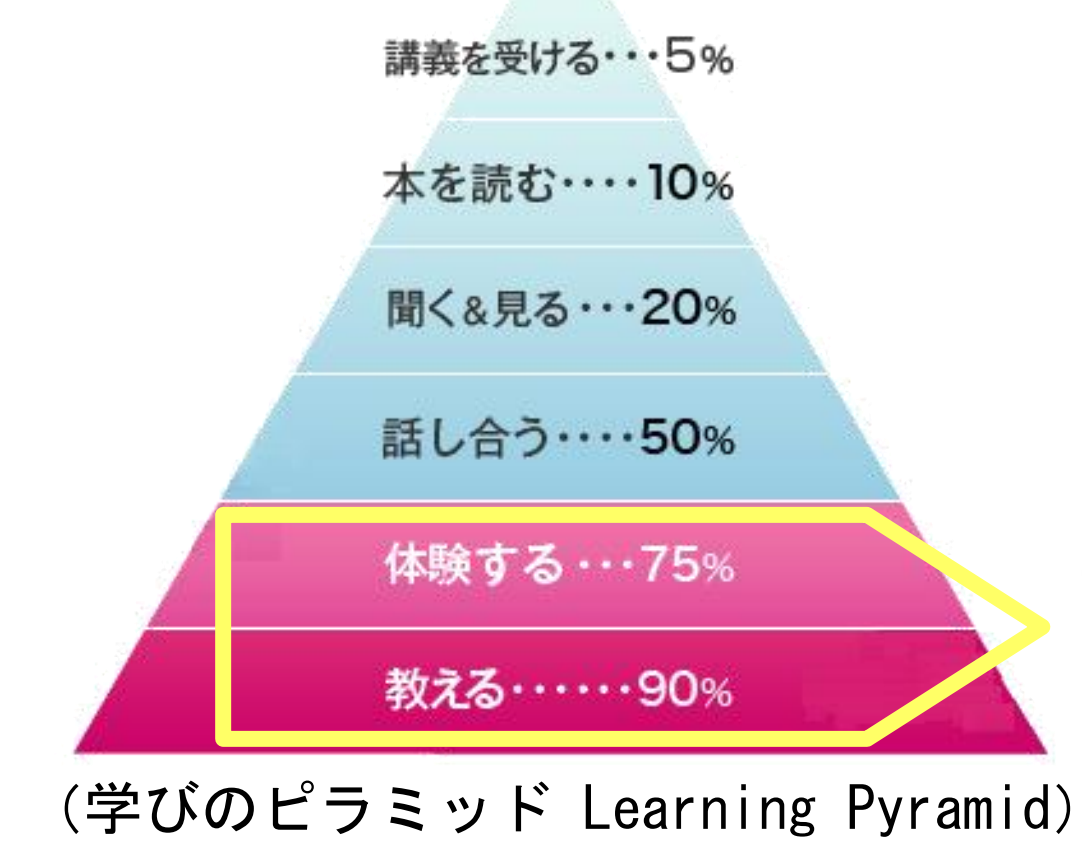
開催場所により、メンバーを選定

●費用対効果

低コスト、かつ文化財への影響は少ないながらも、その効果は大きい。



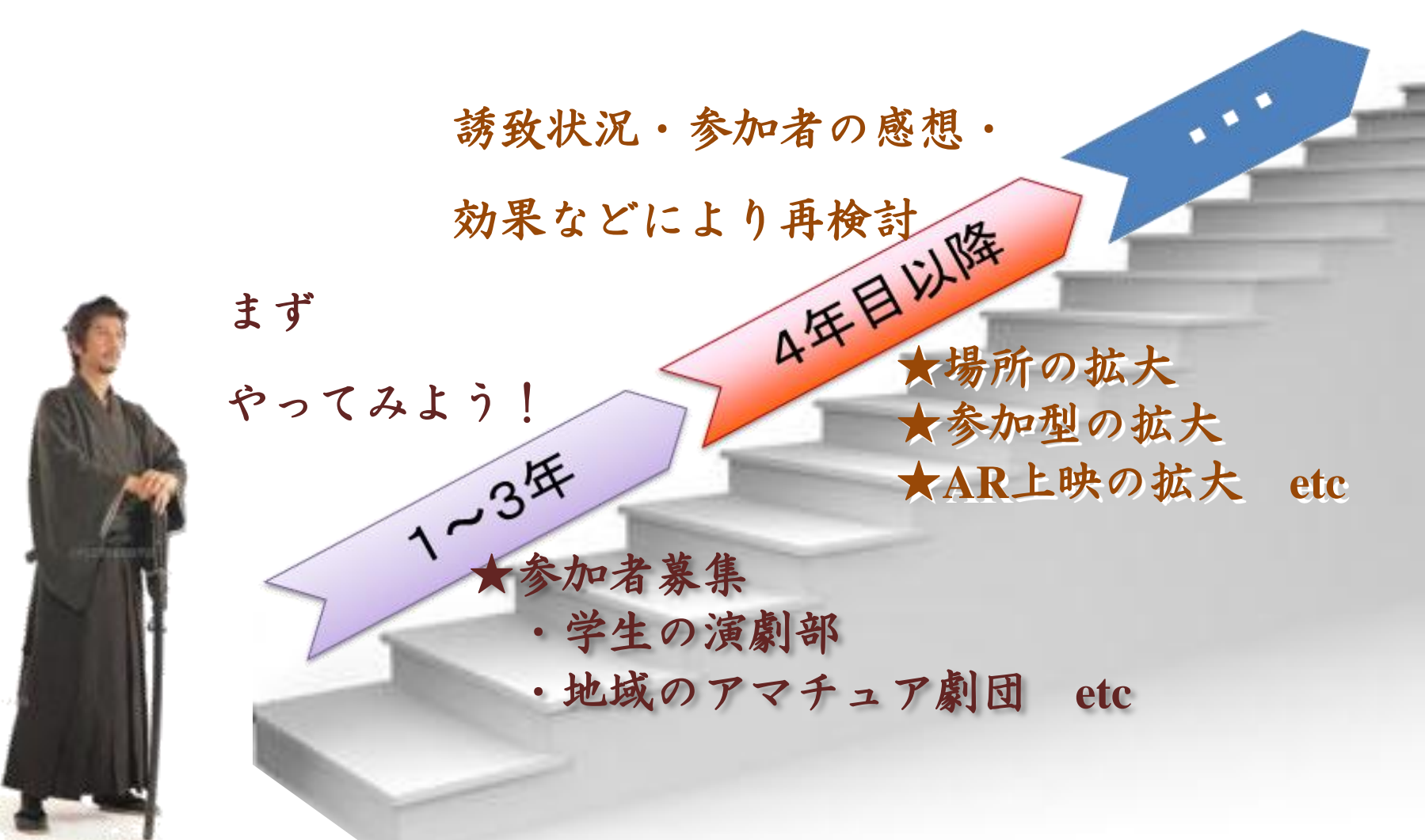
金銭的效果も大きいですが、演者・観光者ともに、歴史を体験して感じるにより、**熊本をより近く感じる**ことができるようになることが最大の効果である。そのことにより、1人1人が**熊本観光大使**であり、**発信者**となっていく。



熊本の観光大使

3. 将来的には

今回、述べた内容は、まずは1~3年目の最初の取り掛かりと考えている。4年目以降は、誘致状況・参加者の感想・効果などにより再検討を行い、**段階的「参加型」の拡大**を行っていきたい。



●場所の拡大

熊本市内には、熊本城の他にも、水前寺成趣園・熊本大学 五高記念館・横井小楠記念館・夏目漱石内坪井旧居・熊本洋学校教師ジェーンズ邸・小泉八雲熊本旧居など歴史上の人物と深い関わりをもった史跡・建物が数多く残されており、たくさんのドラマが残っている。そのような場所にも、本提案事業を拡大して、全体的な熊本市の観光ブランド作りを進めたい。

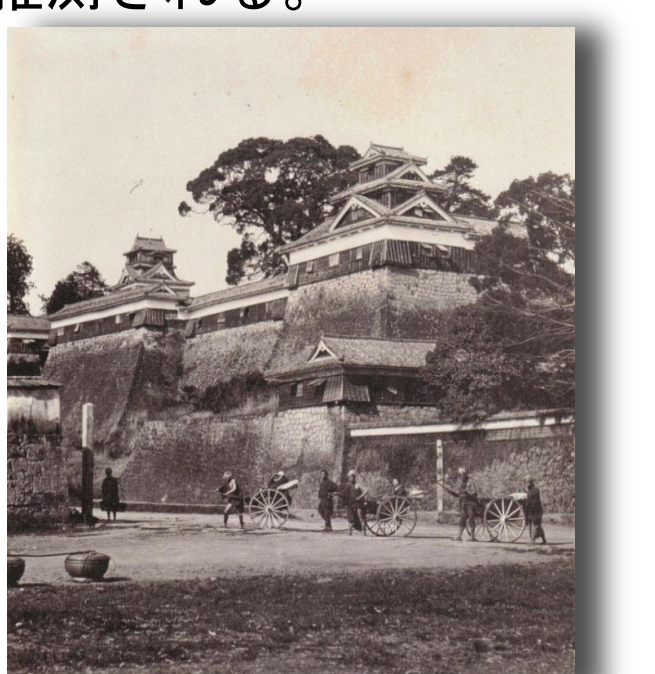
●参加型の拡大

リアルさを追求する観光客が「リアル時代劇」事前準備参加型の演者としても参加できるような仕組み作りを行いたい。例えば、準備期間と本番当日がセットになったようなツアーなど、来訪者の負担は軽いながらもリアリティのある参加の導入が必要となる。

●AR上映の拡大

AR技術は、日々進化している。そのため、現在の技術力、公共性、費用対効果などを考えると、まずは本提案のような、既存システムを利用して、「リアル時代劇」をそのままAR上映ということが一番実現可能性や有効性は高いと推測される。

しかし、将来的には「AR上映」にも「参加型」という要素を持たせたい。例えば、動画に撮影した自分の顔がはめ込まれ上映されたり、現存している焼失前の熊本城写真に自分を写しこませたり等、技術の進化とともに取り入れていきたい。



熊本市を「歴史と出会える観光都市」へ